

議会報告会実施報告書

開催日時	平成24年11月14日(水) 19時～20時46分	
開催場所	西部市民会館	
出席議員	班長	永井俊作
	司会者	木下康子
	記録者	永井俊作 木下康子 出雲晶三
	その他	大西洋紀 井藤圭湊 尾倉あき子 絹川和之 宮坂祐太 千住啓介 国出拓志 (班員外)4名
参加人数	31名	
報告内容に関する質疑応答	<p>総務常任委員会(財政状況について、弁護士の活用について)</p> <p>質問 弁護士の職員としての採用は必要か? そのデメリットは?</p> <p>回答 市役所に来れない方の法律相談をしている。 2人の採用予定が5人の採用になり、議会は納得していない。 年収平均750万円の効果を発揮できるのかは、今後もチェックしていく。 法律相談者の直接の受任者になれず、相談を受けるだけなら職員で対応できるのではないかなど、議論してきた。</p> <p>質問 非正規職員が増えて、行政サービスがダウンするのでは? 適正な職員数は何人か? 正規職員を非正規に置き換えて行政改革だというのはおかしい。</p> <p>回答 行政改革に反対の議員も、賛成の議員もいる。 職員が正規化、非正規化で、サービスが低下したとは一概に言えない。正規であるほうがよいが、財政のバランスもある。</p> <p>意見 債務残高が少ないから、「健全財政」とは言えない。</p> <p>議員定数と報酬</p> <p>質問 年収と手当は?</p> <p>回答 約1000万円。手当はなし。</p> <p>質問 「議会のあるべき姿」、「議員のあるべき姿」を検証することが大切だ。 切磋琢磨して、信頼される議会、議員をめざすべきではないか。</p> <p>回答 「議会のあるべき姿」、「議員のあるべき姿」をうたう議会基本条例を制定するために協議中である。まず、今年度中に、定数と報酬を見直そうとしている。</p> <p>意見 定数削減が世の中の風潮だが、市民の代弁者であり、役割を果たせば減員は必要ない。 頑張っている職員を削減する必要はない。 小学校区あたり一人の定数28人で良い。 議員が多い。 定数を増やして、報酬は少なくすべきだ。</p>	

主な意見・提 言・要望と応答	質問	小野市議会で、空き家対策の条例を議員立法で作った。明石市議会はどうなっているのか。
	回答	空き家対策やごみ屋敷などへの問題意識はっており、議員提案の議論も出ている。
	質問	ケーブルテレビでの放映の反響はどうか。
	回答	議会活動がわかりやすくなったと聞いている。
	質問	本会議で同じ質問が多いがその対策は。
	回答	議会運営員会でも議論したが、各議員がそれぞれの視点から思いを持っているので、それを尊重することになっている。
	質問	明石駅前再開発に対する約2万人超の署名は重い。もっと市民の声を聞くため、住民投票に賛成するのが議員の務めではないか。
	回答	皆様の意見や思いをしっかり受け止めて、臨時市議会で、議員としてしっかり議論していきたい。
	意見	自治基本条例や議会活性化特別委員会での議論を議員全員が同じ認識を持つように変えていくべきではないか。
	意見	津波対策が甘い。防災・減災にもっと力を入れるべきである。
意見	税金は、安全・安心対策に使ってほしい。	
意見	明石駅前再開発については、明石市政初めての住民投票で、市民みんなで決めるべきである。	
意見	明石駅前再開発については、市民目線で、市民の代表として、議会運営委員会や建設企業常任委員会でもっと議論をすべきである。	
意見	明石駅前再開発推進の請願の討論では、反対の討論はあったが、賛成の討論はなかった。	

明石市市議会活性化特別委員長 様

平成24年11月21日
上記のとおり報告します。

班長 永井俊作